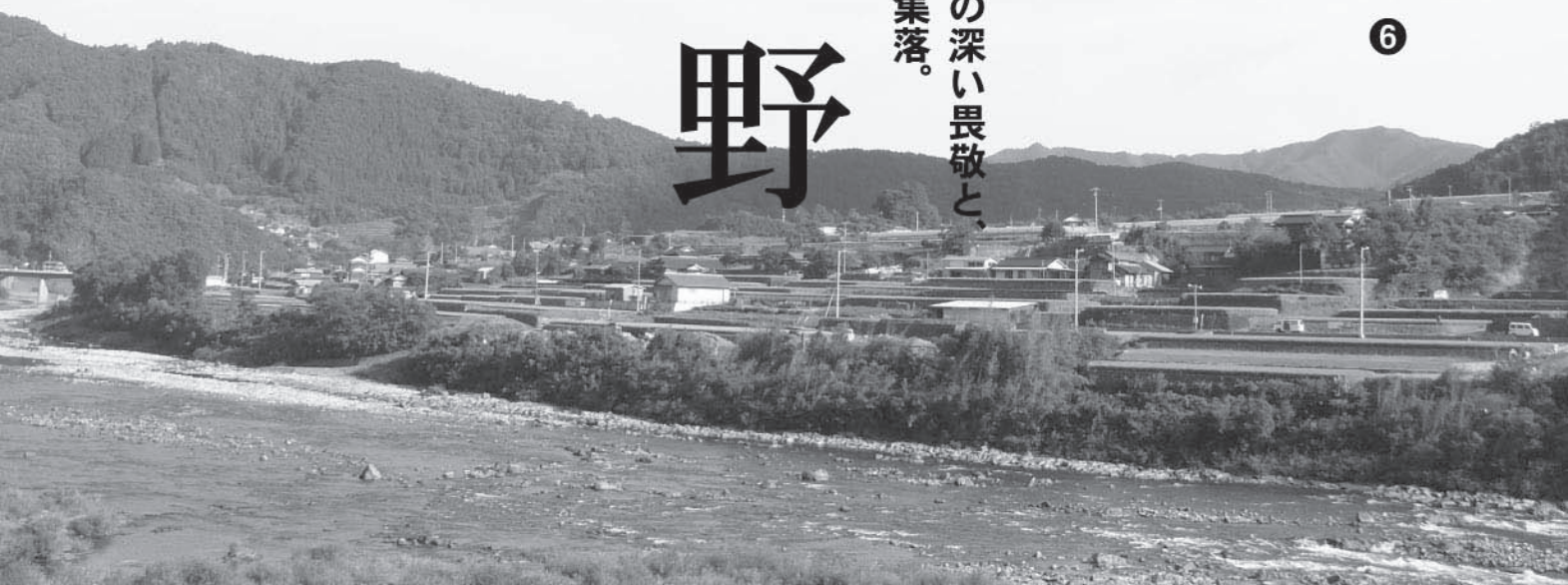


自然の神への深い畏敬と、  
達人を生む集落。

# 小野



地形が緩やかで空が広い

**昭** 和から国道381号を四万十川沿いに下って十和トンネルを出ると

対岸に見える、なだらかな丘陵地域が小野である。そのまま十川方面に移動しながら小野地区全体を眺めることができる。周囲に山が迫っている集落が多い十川地域では、小野は珍しく地形が緩やかで空の広い集落である。JR予土線の車窓から見える、そのゆったりとした景観が旅人に人気だという。

4月下旬になると、集落の下手(下流)にある山から対岸の十川にかけて、こいのぼりが泳ぐ。勇壮な「こいのぼりの川渡し」である。

自然の神への深い畏敬

**集** 落には「屋敷神」と言われる各家々が祀っている神様、ゆとりの森に祀られている「山の神」

十川地区との境にある「川鎮めの地蔵」、渡し船跡辺りにある「見合いの地蔵」などが、それぞれ手厚く祀られている。

また、天日八幡宮で行われる奉納相撲は、ずいぶん古くから大切にされてきた行事らしい。

小野集落の人たちの自然の神への畏敬の深さに感心する。

小野のさつまいもは別格

**集** 落の上手(上流)には切石で三方

を包んだかなり大きい石堤防がある。先人が四万十川の氾濫から、集落や田畑を守るために造ったものだ。



水害の心配の反面、集落には大きな谷がなく、昔から水には苦勞したようだ。そのため、小野で米作りができるようになったのは、現在の農業用水設備ができただけで、それ以前は、キビやさつまいもなどが多く作られた。今でもさつまいもは盛んに作られている。小野の地質がさつまいも栽培にとっても適していて、「小野のさつまいもは別格」と言う人もいるくらいである。

素晴らしい腕と感覚と情熱

**さ** て、小野には達人が多い。古代紫の染料になる「むらさき」の栽培に20年近く取り組む藤川さん、世界中のクリエイターから引き合いがある和紙・十川泉貨紙の漉き手である芝さん、流域では一・二を争う腕を持つ船大工の中脇さん……。

彼らのすばらしい腕と感覚と情熱を、未来へ受け継いでいって欲しいと思う。



見合いの地蔵



川鎮めの地蔵



屋敷神